



ニュースレター

SDM NEWS



定年制のない西島株式会社を見学：西島社長と一緒に集合写真

1

2013年 月号

行事予定

2013年2月6日(水) 19:00 ~ 21:00
SDM研究所・GCOE共催公開講座
「ダイアログとデザインの未来
Vol.8 経済の未来」

@日吉キャンパス 協生館C3S10教室
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/02/06-132333.html>

要事前登録 無料

2013年3月4日(月) 13:00 ~ 17:10
第5回環境共生・安全システムデザイン
シンポジウム「脳と心と幸福を考える」

@日吉キャンパス協生館 藤原洋記念ホール
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/03/04-164319.html>

要事前登録 無料

研究科委員長兼研究所長からのメッセージ

「システミック×システムティック」な問題解決を

明けましておめでとうございます。今年のSDMのキャッチフレーズは“システム”。昨年は主にデザインという単語にフィーチャーした一年だったと言えるかもしれません。今年は初心に帰り、“システム”にフォーカスします。システムとは、要素間の関係性によって創発する特徴を持つもの。技術システムから社会システム、人間システムまで、インタラクションを含むものは何でもシステムです。慶應SDMで重視するのは、システムズエンジニアリングを基盤とするシステムズ・アプローチ。システムズ・アプローチには、ふたつの意味があります。システミックなアプローチと、システムティックなアプローチ。前者は、ものごとをシステムとして俯瞰的・全体的に見るということ。後者はロジカルに分解・統合するということ。慶應SDMでは両者を駆使してイノベティブなデザインとサステナブルなマネジメントを実現します。システムズ・アプローチを身に着けた人材の育成、SDM学の基礎と応用に関する実践的な研究、そして企業や事業体との連携に基づく様々な階層での問題解決・社会変革。今年度もよりよい世界を構築するために邁進してゆく所存ですので、ご指導・ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

今年のSDMニュースも、巻頭のメッセージは12名の専任教員が月替わりで登場し、それぞれのSDMにかける思いを語る場にいたします。システムズ・アプローチをベースに問題解決と社会貢献を果たす慶應SDMを、本年もどうぞ宜しくお願いいたします。



SDM研究科委員長・SDM研究所長 前野隆司

慶應義塾大学イベントカレンダーもご利用ください。

http://www.keio.ac.jp/ja/event/201301/201301_index.html

通算50号 2013年1月発行

SDM
System Design and Management



12名の専任教員集合写真

TOPIC 1 11月12日、定年制のない西島株式会社を見学

経営・財務戦略論の授業の一環で、2012年11月12日、吉田篤生特別招聘教授と当麻哲哉准教授が学生を引率して愛知県にある西島株式会社を訪問、工場見学とともに、社長とディスカッションする場をもった。西島株式会社は、工作機械を設計から納入まで自社一貫生産し、自動車産業などに納めている企業。「一生元氣、一生現役」をモットーにする定年制のない会社として有名。当該科目で毎年訪問しており、今年で4回目を迎えた。

今回は過去最多の34名の学生が参加、高齢になっても働き続ける意欲あふれる現場に直接触ることができた。中には勤続60年を超えてまだ現役で活躍する社員もいる。最高齢の社員は78歳。学生たちにとっては、高齢化する日本社会における労働力のあり方を、改めて考え直す良い機会となった。

なお、この訪問で毎年恒例となっている社員

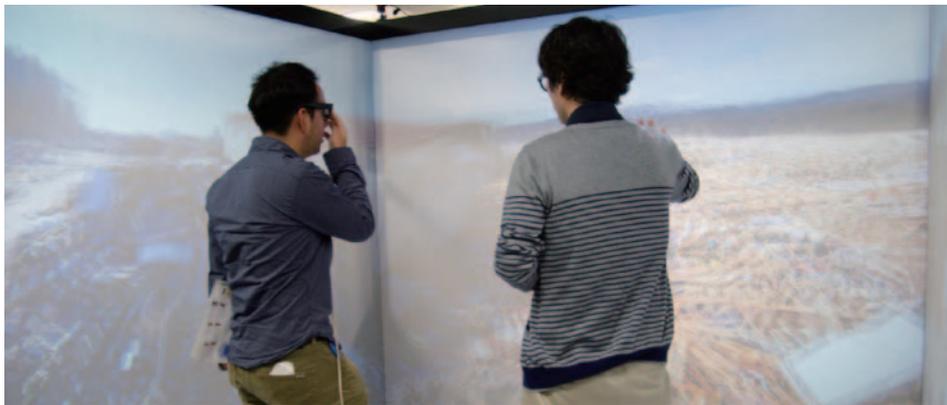


現場で勤続60年を超える現役社員から説明を受ける学生たち

食堂でのカレー食べ放題では、19名の学生が社長表彰の目標である3杯以上を食べ、食堂

で用意していたご飯を食べつくすという名誉ある(?)記録を作った。

TOPIC 2 2012年度第6回「SDM研究科説明会」開催



慶應SDMの実験設備見学の様子

2012年12月8日(土) 13:00 より、日吉キャンパス協生館3階CDF教室において研究科説明会を開催した。本年度6回目となる今回は二部構成で、前半は研究科のコンセプトやカリ

キュラムの説明、教員紹介の後、在學生2名(小林延至君、木村英樹君)が在學生生活などについて自らの経験を語った。在學生体験談では入学動機や研究活動、慶應SDMでの生活に

ついて具体的なエピソードを交えた話があり、参加者は熱心に聞き入っていた。

後半は参加者を数グループに分け、映像デモ「4K3Dフィルム」と、11月に行われた星出宇宙飛行士との通信記録ビデオの視聴をし、その後実験施設CAVE等の見学会を行った(協力:小木研究室および当麻研究室)。さらに、開講中の授業「政策デザイン論」のワークショップの様子を見学してもらった。

その後、協生館6階の廊下や大会議室において、各研究室や横断研究型ラボの活動内容を紹介するポスター展示を実施すると共に、研究室・会議室内にブースを設け、教員と在學生が個別相談に応じた。研究内容や在學生生活などについて教員や在學生と直接話すことができるこの説明会は、慶應SDMをより良く知る機会として、50名を超える多くの参加者から好評を博した。

TOPIC 3 東映アニメーションの制作現場見学会を実施

2012年12月3日(月)、経営・財務戦略論の学外活動として、東京大泉にある東映アニメーション株式会社の本社を訪問し、クールジャパンの代表とされる日本アニメの制作現場を見学した。同社は、日本アニメ界唯一の上場企業として、60年以上に渡りドラゴンボールやワンピースを始め数々のメガヒット作品を生み出すとともに、宮崎駿氏他多くの優れた人材を輩出したことでも知られている。同社の社外取締役・特別顧問を歴任した吉田篤生特別招聘教授の引率で、制作現場を各工程別に視察した。1つの作品を完成させるために、企画立案からスタートし、動画作成、彩色、撮影から録音編集に至るまで12工程の緻密な作業の積み重ねに接し、制作現場の厳しさを肌で感じとることができた。視察後は、製作管理の責任者を囲み、アニメビジネスのマネジメントを含む活発な意見交換がなされ、最後にギャラリーを見学して終了した。



ギャラリーの等身大プリキュア人形の前で

TOPIC 4 「未来デザイン会議」開催

2012年12月15日に未来のデザインについて具体的なアイデアを議論する公の場として第1回未来デザイン会議を開催した。審査員に井上智治氏(井上ビジネスコンサルタンツ代表)、澤谷由里子氏(JSTフェロー)らをお迎えし、協生館3階慶應SDMにて開催した。

SDM内外の50件以上の応募の中から選んだ8件の発表と議論を行い、ビジネス提案や社会デザイン提案について議論を行った。「8年間で世界から暗闇をなくすプロジェクト」「TransFan♪System」「自助と公助をつなぐロッカー」「baton 未来に繋がる学びの場」「ペアレンティングホーム」「幸福なおばあちゃんになるためのマナーブック」「未来の介護システム”皆護楽”」「KGプラットフォームの推進」のなかから参加者の投票による最優秀賞(ペアレンティングホーム)、審査員特別賞(baton 未来に繋がる学びの場)、SDM研究科委員長賞(KG (Kojo girls) プラットフォームの推進)を選んだ。これからも、世界を変えるアイデアを慶應SDMから発信してゆきたい。



総合司会の保井特別招聘教授



発表の様子



秋山伶史氏への最優秀賞授与の様子

TOPIC 5 12月17-18日、医学部において高精細医療映像の実験を実施

当麻哲哉准教授が代表のコミュニケーション・デザインラボは、2012年12月17-18日の2日間、信濃町キャンパスにおいて、教員、学生、医師、看護師らを対象に、映像による医学教育や遠隔医療のデモンストレーションを兼ねた実験を実施、大画面3Dや超高精細4Kといった最先端の高精細映像技術の活用を医学部にアピールした。

実験のメインは、疑似患者を超高精細4Kカメラ(ハイビジョンの4倍の画素数)で撮影したライブ映像を、ディスプレイを通してリアルタイムに診察するもの。カメラメーカーのアストロデザイン社の協力のもと、当麻准教授が副所長を務める、理工学部附属フォトンクス・リサーチ・インスティテュートで開発された世界最速プラスチック光ファイバーによって、4K映像を



4K映像(右)をハイビジョン(左)と比較しコメントする医学部の参加者

非圧縮のまま遅延なく伝送することに成功した。この実験により、高精細映像による遠隔

医療の可能性につき、参加者から貴重なヒアリングをすることができた。

ラボ・センター紹介

起業デザインラボ

(Entrepreneur Laboratory)

代表 前野 隆司 教授 maeno@sdm.keio.ac.jp

メンバー 春山真一郎教授、白坂成功准教授、保井俊之特別招聘教授、湊宣明特任准教授 ほか

<http://lab.sdm.keio.ac.jp/el/Aboutus/aboutus.html>

慶應SDMには、毎年十人以上の経営者が学生として学んでおり、起業や社内起業を行いたいという学生も少なからずいます。では、慶應SDMの方法論や手法を用いて、起業や新規ビジネスについて考える場を作ろうではないか。そのような考えで集った学生・教員によって2012年夏に発足した新しいラボです。

ラボの活動

- 起業デザイン学を体系化し、2013年度から始まる科目「起業デザイン論」に貢献
- 起業経験者、経営経験者の話を聞く会を実施し、実践的な知識や心構えを学ぶ
- システム思考・デザイン思考などのSDMの方法論を用いてそれぞれのビジネスアイデアをブラッシュアップする会を開催
- 起業のための基本(経営学、会計学、イノベーションなど)の勉強会を開催(今年度は「ビジネスモデル・ジェネレーション」を用いた湊准教授の勉強会を開催)
- 未来デザイン会議を共催
- その他、起業や新規事業の関するディスカッション・情報交換・共同研究



ラボの様子

上述のように2013年度には新しい科目「起業デザイン論」が立ち上がることも決まるなど、メンバー一同活発に活動しています。ご興味のある方はお気軽にご参加ください。お待ちしております。

先進都市デザインラボ

(Advanced City Design Laboratory)

代表 中野 冠 教授 nakano@sdm.keio.ac.jp

メンバー 佐々木正一教授、湊宣明特任准教授、野中朋美特任助教 ほか

目的

我が国の少子高齢化、東日本大震災に代表される自然災害、世界的な環境都市建設ブームの中、持続可能な都市に関するコンセプトづくりが望まれています。本ラボでは、政策評価に関する包括的方法論を研究するとともに、政策を提言していきます。

方法論

本ラボでは、自然災害や高齢化社会などに対する都市の課題を可視化し、目標を定め、それを達成するための具体的な取り組みたとえば政策やインフラ等を提案するための包括的方法論を研究しています(図参照)。

提案する施策を、持続可能性基準すなわち環境・経済・社会の3つの視点を統合して評価することによって、その地域に適した都市デザインの基本コンセプトを関係者で議論することが可能になると期待しています。

関係者が合意する上で、問題分析と政策の定量的評価すなわち複数の政策を複数のシナリオで定量的に分析することが特に重要です。定量的評価には、システムダイナミクス、マルチエージェントシミュレーション、人口動学、ライフサイクルアセスメント、産業連関分析、一般均衡モデル、ゲーム理論などの手法が使われます。

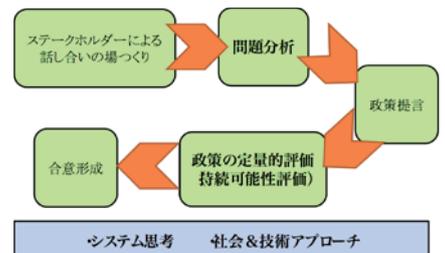


図. 先進都市デザインの包括的方法論

具体的テーマ

先進都市デザインラボでは、これまで次のような研究を行ってきました。

- 1) 多摩ニュータウンなど、高度経済成長期に作られた大都市近郊ニュータウンの持続可能性を持つ再開発デザイン
- 2) 関東大震災や戦後の混乱期に乱立した東京都の杉並区、荒川区等における木造家屋の密集地再開発政策
- 3) 富山、北九州など、先進的都市の魅力分析
- 4) 横浜、日本橋など、大都市高層ビル地域再開発における持続可能性評価
- 5) 東北被災地における復興計画や都市計画

活動

企業パートナーとともに活発な議論を展開しています。研究会を月1回程度の頻度で開催して方法論を議論するとともに、現地における視察、インタビューを行っています(写真)。また、欧州の大学など海外からも共同研究の誘いを受けています。



写真: 現地の見学(富山市、北九州市、石巻市)



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館

Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

SDM
System Design and Management